

ふてしこ

1 '19
No.278
巡回通信誌

平成を振り返る

院長 林 田 良 三

新年明けましておめでとうございます。平成最後の新年にあたり、激動という言葉がふさわしい平成の30年間をみなさんはどのような感慨をもって振り返っておられるのでしょうか。大分県済生会日田病院は平成2年10月1日に開院され、平成の月日の流れとともにその歩みを進めてまいりました。今回は、済生会日田病院の平成、28年間の歩みを振り返ってみたいと思います。

済生会日田病院の開院までの道のりを辿ってみますと、半世紀近くさかのぼることになります。当時、日田玖珠地域には救急医療を担当する公的病院がありませんでした。救急医療の中核となる公的病院の設置が日田玖珠広域市町村圏の振興計画に盛り込まれたのは昭和45年3月のことでした。その後、経営母体をどうするか等多くの論争があり、20年を超える紆余曲折を経て平成2年10月1日、大分県済生会日田病院は開院に漕ぎ着けました。開院当初は8診療科、148床でのスタートでした。その後、年月を重ねるとともに標榜する診療科を増やして、平成20年5月には22診療科、204床を有する病院となりました。また、地域に不足している医療機能を補完するため、数々の施設認定や指定を受けたり、建物の改築、増築を行ってまいりました。地域密着型の公的病院として着実に進歩を遂げてきたものと自負しております。

しかしながら、一方で激動の平成時代にあつて、私達を取りまく医療環境は国や地域情勢の変容とともに刻一刻と変化していきました。そのような変化に翻弄された28年であったことも否めません。初代院長の小金丸先生（平成2年～平成14年）、2代目院長の西田先生（平成14年～平成28年）そして3代目の私（平成28年

～）とその時々即した病院へと変化させながら、押し寄せる時代の荒波を曲がりなりにも乗り越えてまいりました。

私たち済生会日田病院には果たさなければならぬ3つの役割があります。一つ目は済生会の一員として実施している生活困窮者への無料低額診療の実施です。生活困窮者への医療支援は済生会が100年を超える歴史のなかで時代、地域を超えて受け継いできた役割です。済生会の根源的、普遍的価値観と言ってもいいと思います。二つ目は日田玖珠地域唯一の公的病院としての役割です。この地域に不足している医療機能を補完していくことが公的病院の役割と考えています。そして3つ目は社会福祉法人としての役割です。医療の枠組みを超えて、福祉事業を実践していく役割です。現在は大分市へ相談員を派遣し刑余者の社会復帰を支援しています。

この3つの役割は医療環境がどんなに変化しても変わらず持ち続けるべき役割と考えています。これからも医療・介護を取り巻く環境は更に厳しくなっていくものと思われまふ。逆説的な言い方になりますが、済生会日田病院の役割を変わず果たすために、私たちは新しい時代の潮流をとらえて、変わっていかねければならぬと考えています。



引用：時事通信社(jiji.com)

